

第2章

障害のある人等を取り巻く現状

1 障害のある人の状況

(1) 障害のある人の数

平成 29 年 3 月 31 日現在、本市の障害のある人（＊手帳所持者）の人数は 4,009 人であり、内訳は、身体障害者手帳所持者が 2,904 人、療育手帳所持者（知的障害）が 689 人、精神障害者保健福祉手帳所持者が 416 人となっています。

近年、身体障害のある人は微減傾向、知的障害のある人は増加傾向で、精神障害のある人は一貫して増加が続いており、障害のある人全体の数は 4,000 人前後で推移しています。

市の総人口が年々減少するなかで、人口に占める障害のある人の割合は、近年、増加傾向となっています。

人口と障害のある人（各手帳所持者）の数の推移

単位：人

区分 \ 年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年
人 口	89,079	88,316	87,813	86,999	86,118
身体障害のある人	3,254	2,943	2,955	2,948	2,904
知的障害のある人	645	624	641	663	689
精神障害のある人	295	333	373	401	416
障害のある人の総数	4,194	3,900	3,969	4,012	4,009
対総人口比率（％）	4.71	4.42	4.52	4.61	4.66

注：各年 3 月 31 日現在

資料：住民基本台帳、君津市障害福祉課資料

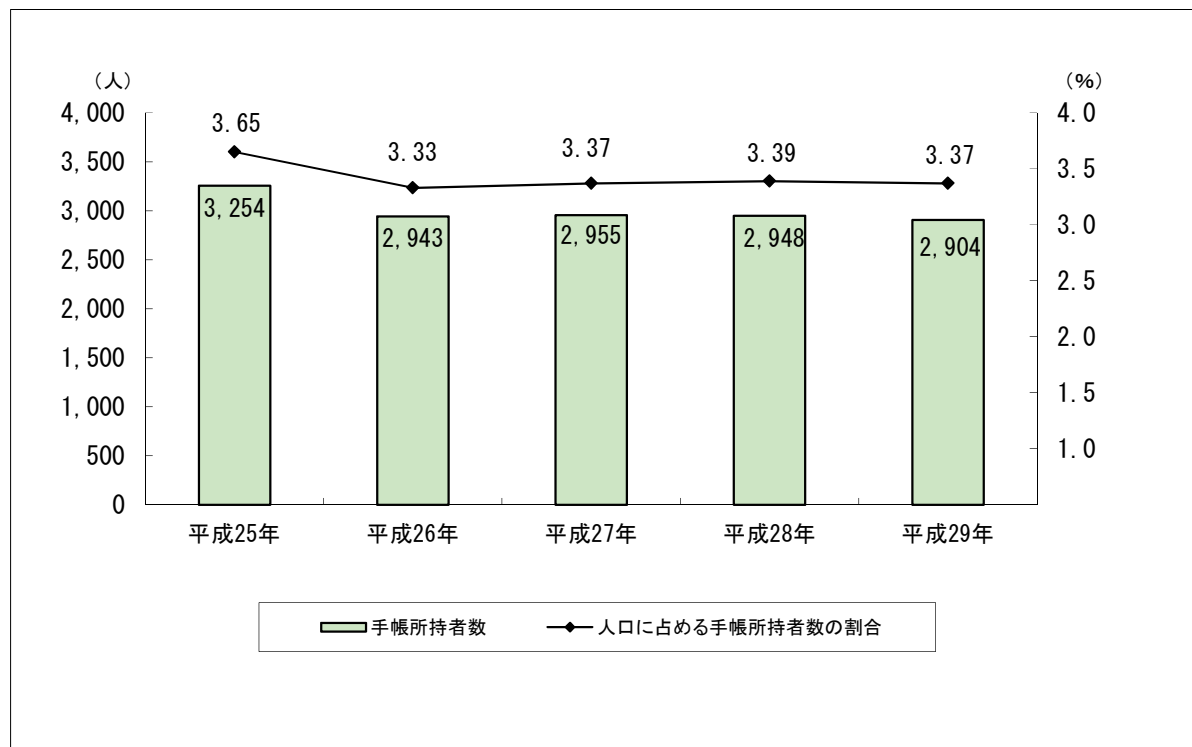
（２）身体障害のある人の状況

身体障害者手帳所持者数は、平成 29 年 3 月末現在、2,904 人で、平成 25 年から 350 人減少しています。人口に対する割合は 3.37%で、ここ数年は横ばいの状態が続いています。手帳所持者数については、近年は微減傾向を示しています。

身体障害者手帳所持者の推移

(各年3月31日現在)

年	人口（人）	所持者数（人）	割合（％）
平成25年	89,079	3,254	3.65
平成26年	88,316	2,943	3.33
平成27年	87,813	2,955	3.37
平成28年	86,999	2,948	3.39
平成29年	86,118	2,904	3.37

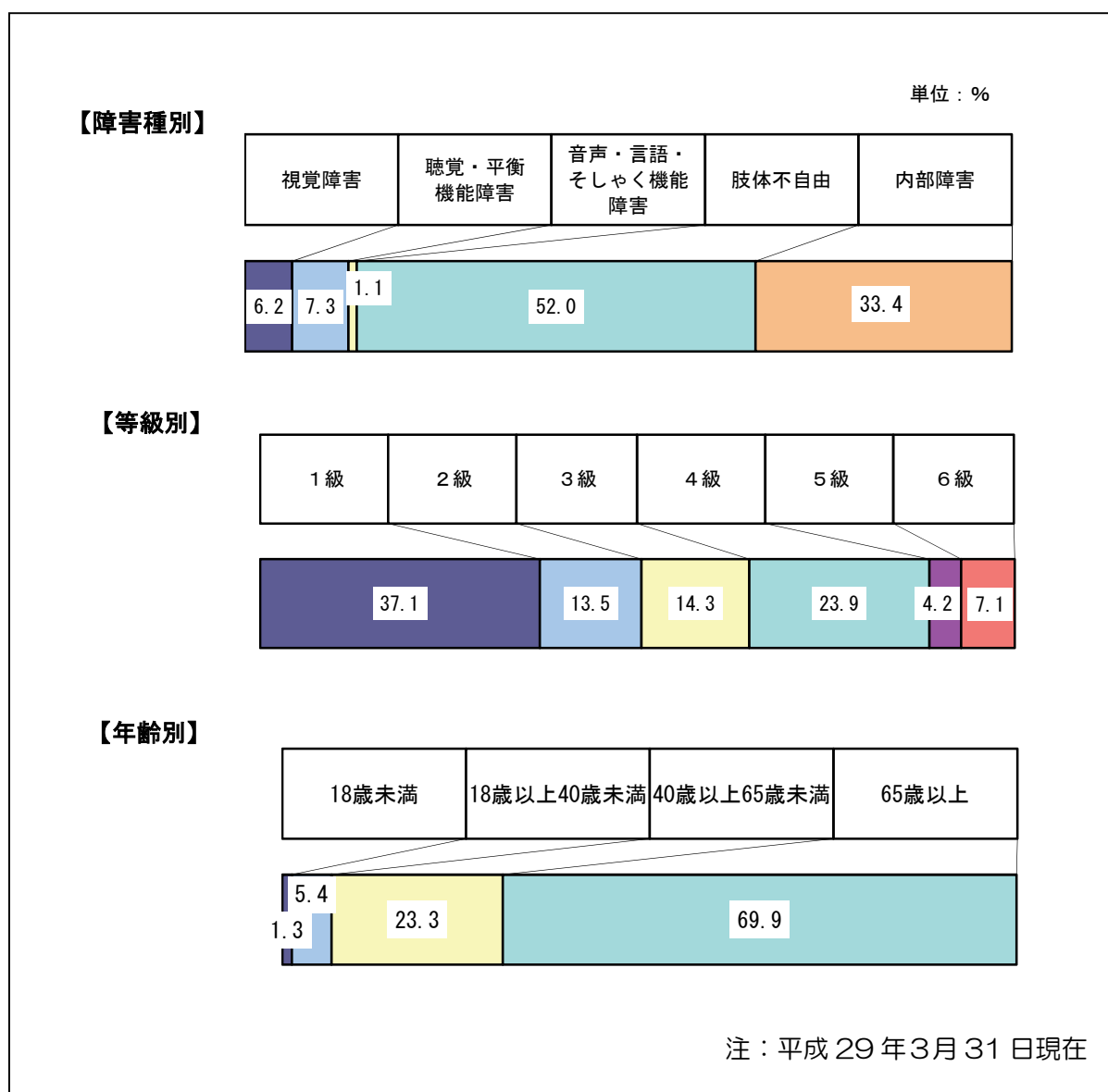


障害種別では、平成 29 年 3 月末現在、「肢体不自由」が過半数を占めて最も多く、実数は 1,509 人となっています。次いで「内部障害」が多くなっています。

また、等級別では、「1 級」が全体の 37.1%を占めて最も多く、次いで「4 級」が 23.9%で多くなっています。「1 級」と「2 級」を合わせると 50.6%と、過半数に達します。

年齢別でみると、ほぼ 7 割が 65 歳以上で、圧倒的に多くなっています。

身体障害者手帳所持者の状況



資料：君津市障害福祉課

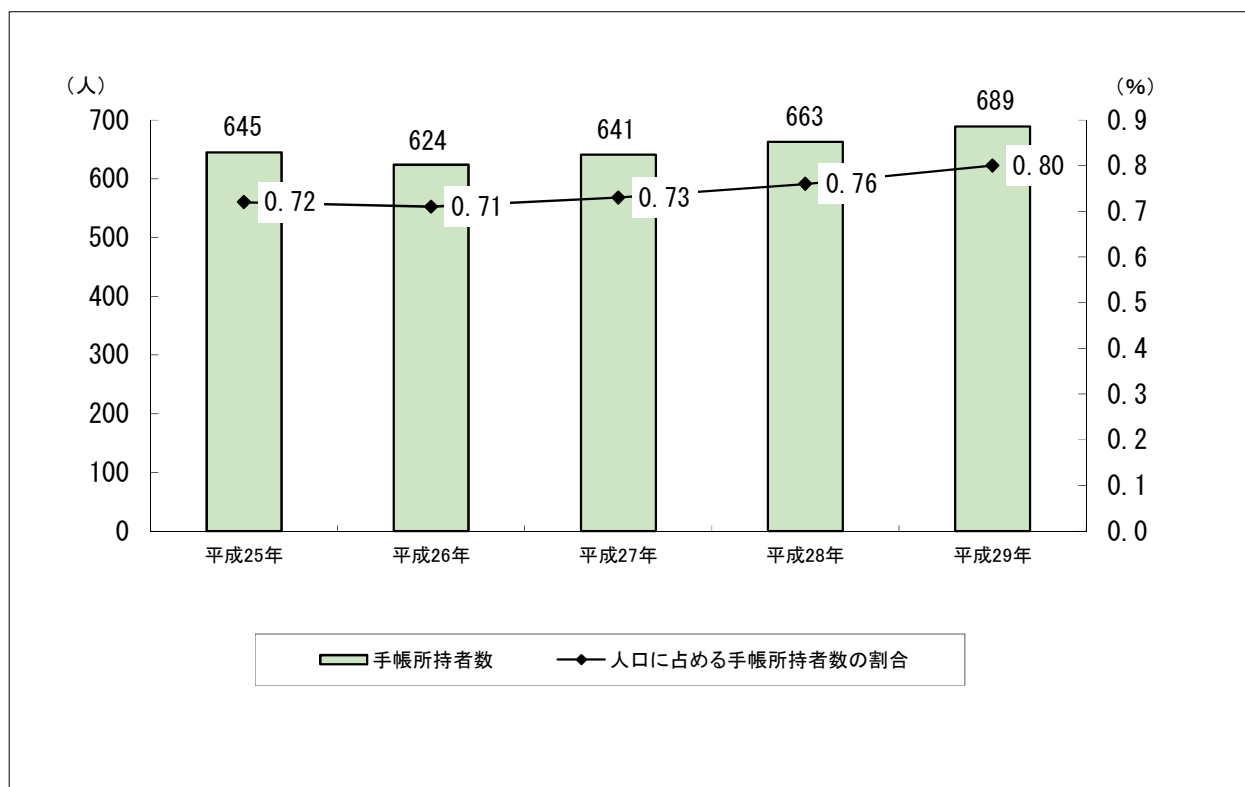
（３）知的障害のある人の状況

療育手帳所持者数は、平成 29 年 3 月末現在、689 人で、平成 25 年から 44 人増加しています。人口に対する割合は 0.8% で、平成 26 年を底に年々増加傾向を示しています。手帳所持者数についても、近年は増加傾向を示しています。

療育手帳所持者の推移

（各年 3 月 31 日現在）

年	人口（人）	所持者数（人）	割合（％）
平成25年	89,079	645	0.72
平成26年	88,316	624	0.71
平成27年	87,813	641	0.73
平成28年	86,999	663	0.76
平成29年	86,118	689	0.80



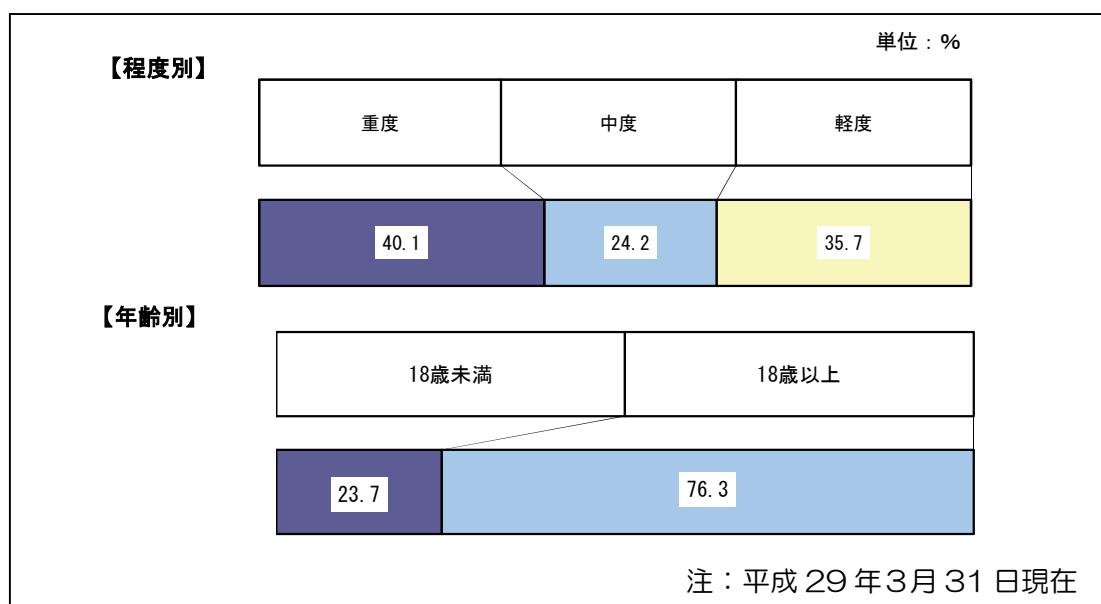
療育手帳の程度区分別では、「重度」が最も多く、平成29年では276人で全体の40.1%を占め、次いで「軽度（Bの2）」が246人、「中度（Bの1）」が167人となっています。

また、年齢別でみると、689人中526人（76.3%）が18歳以上で、圧倒的に多くなっていますが、軽度の人では18歳未満も比較的多くみられます。

療育手帳所持者の状況

（各年3月31日現在）

区 分		平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年
重度（㉠、A）	18歳未満	63	77	45	42	35
	18歳以上	217	203	233	241	241
	計	280	280	278	283	276
中度（Bの1）	18歳未満	54	53	44	46	45
	18歳以上	102	92	106	115	122
	計	156	145	150	161	167
軽度（Bの2）	18歳未満	86	109	81	70	83
	18歳以上	123	90	132	149	163
	計	209	199	213	219	246
合 計	18歳未満	203	239	170	158	163
	18歳以上	442	385	471	505	526
	計	645	624	641	663	689



資料：君津市障害福祉課

（４）精神障害のある人の状況

精神障害者保健福祉手帳所持者数は、平成 29 年 3 月末現在、416 人で、平成 25 年から年々増加がみられ、121 人増加しています。

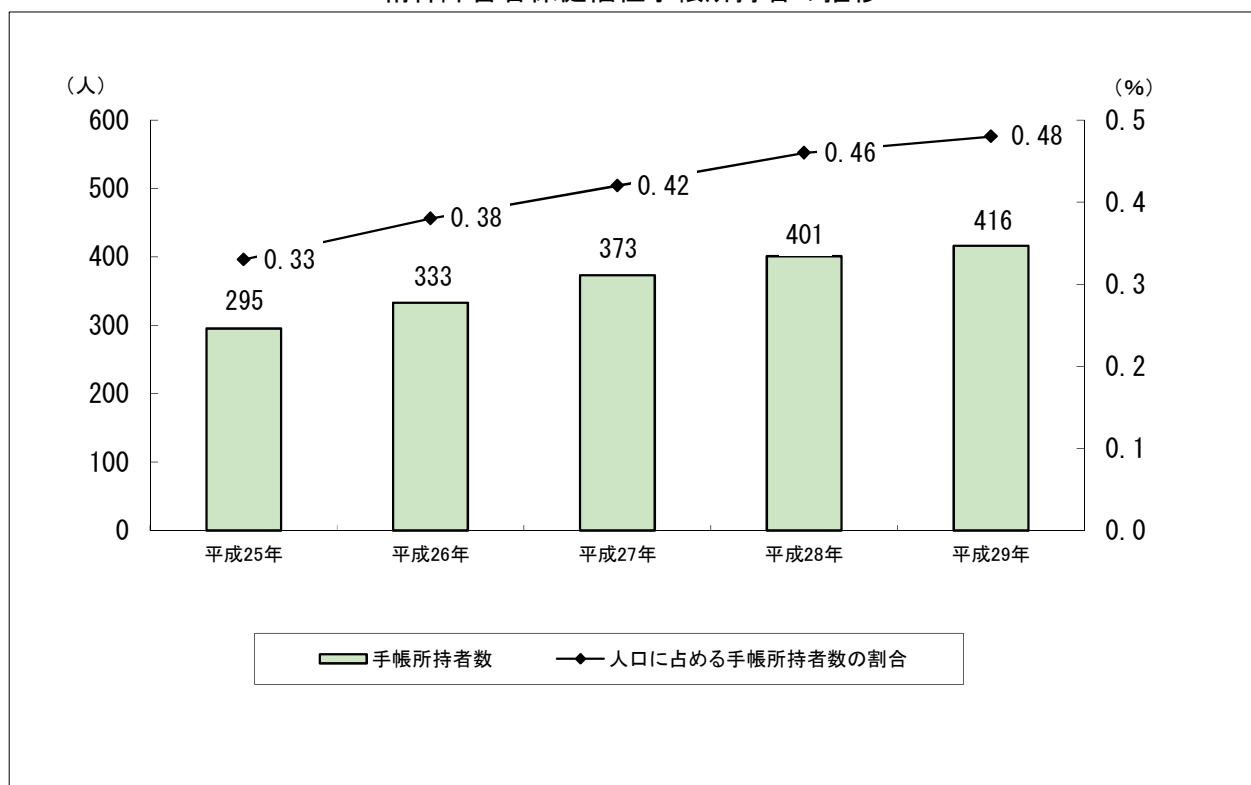
また、自立支援医療（精神通院）受給者数は 1,203 人で、手帳所持者数と同様に年々増加しています。

精神障害者保健福祉手帳所持者数及び自立支援医療（精神通院）受給者数の推移

（各年 3 月 31 日現在）

年	人口（人）	所持者数（人）	割合（％）	自立支援医療 受給者数（人）	割合（％）
平成25年	89,079	295	0.33	1,023	1.15
平成26年	88,316	333	0.38	1,089	1.23
平成27年	87,813	373	0.42	1,142	1.30
平成28年	86,999	401	0.46	1,194	1.37
平成29年	86,118	416	0.48	1,203	1.40

精神障害者保健福祉手帳所持者の推移



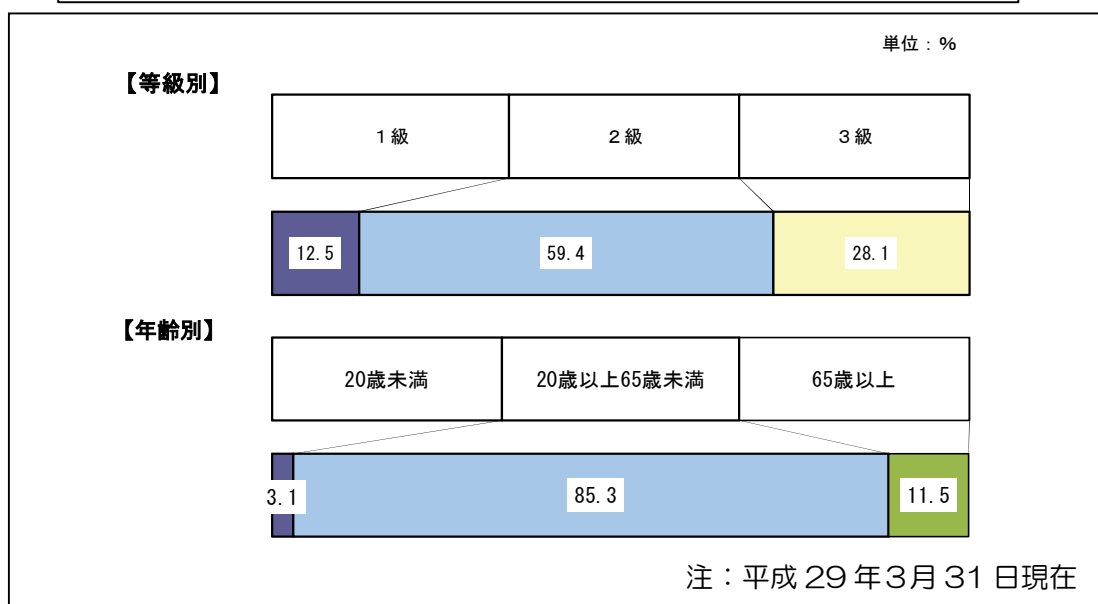
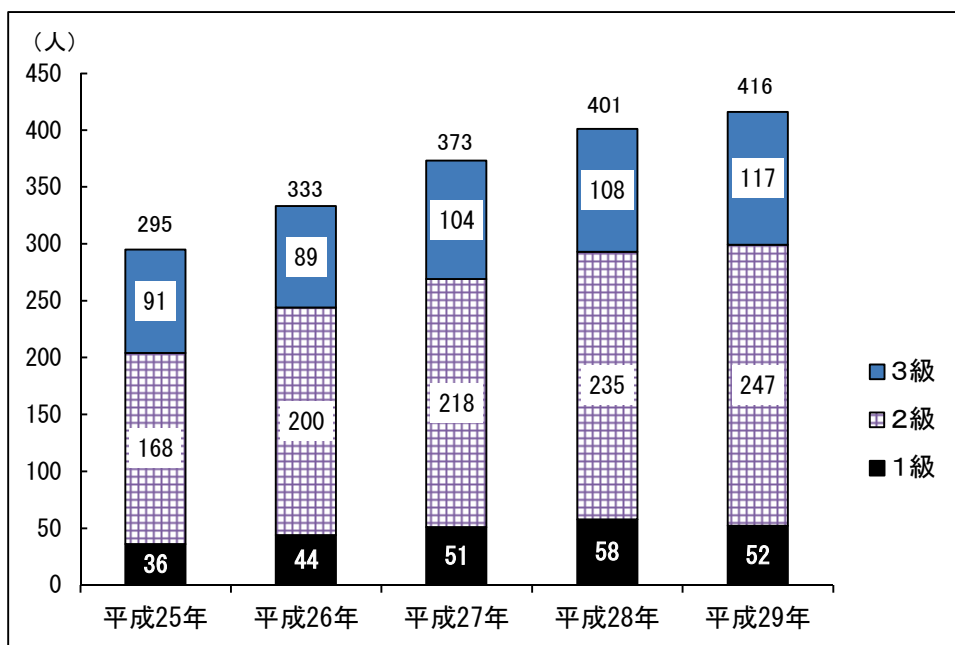
手帳の等級別でみると、平成 29 年では「2 級」が 247 人で最も多く、全体の 59.4% を占めています。

また、近年の傾向をみると、どの等級も増加傾向にあり、特に「2 級」は大きく増加しています。

精神障害者保健福祉手帳所持者の等級区分等状況

(各年3月31日現在)

区分	1級	2級	3級
平成25年	36	168	91
平成26年	44	200	89
平成27年	51	218	104
平成28年	58	235	108
平成29年	52	247	117



資料：君津市障害福祉課

2 アンケート調査の結果からみた障害のある人の現状等

平成 28 年度に実施した「第 2 次君津市障害者基本計画・第 5 期君津市障害福祉計画・第 1 期君津市障害児福祉計画策定のためのアンケート調査」（以下「アンケート調査」という。）の結果から、障害のある人の日々の生活に関する現状と課題等を整理します。

アンケート調査の概要

【調査の目的と趣旨】

第 2 次君津市障害者基本計画・第 5 期君津市障害福祉計画・第 1 期君津市障害児福祉計画の策定にあたり、障害者の日常生活等についての状況、考え方や今後の意向などのほか、障害のない市民の意識などを把握することを目的としてアンケート調査を実施しました。

【調査の対象】

○障害のある市民調査…障害者手帳を所持している市民から「1,500人」を無作為抽出

○障害のない市民調査…各種障害者手帳を取得していない市民から「350人」を無作為抽出

【調査票の配付・回収方法】

配付・回収とも郵送により実施

【調査期間】

項 目	実施年月
調査票の設計	平成29年 1月～2月
調査票の印刷・発送準備	2月～3月
調査票の配付・回収・集計	3月

【回収結果】

○障害のある市民調査

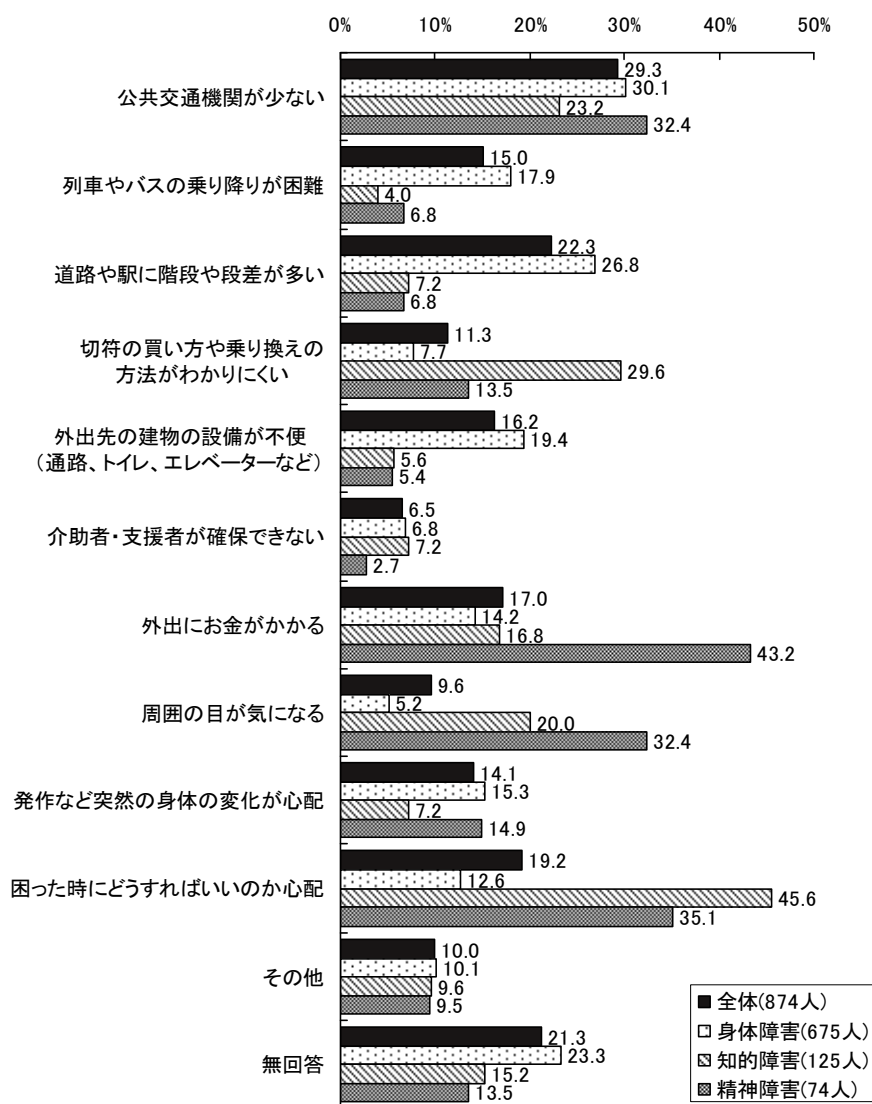
	発送数	回収数	回収率
身体障害	1,100	760	69.1%
知的障害	250	132	52.8%
精神障害	150	83	55.3%
合計	1,500	975	65.0%

○障害のない市民調査

	発送数	回収数	回収率
合計	350	199	56.9%

（１）外出する際に困ること

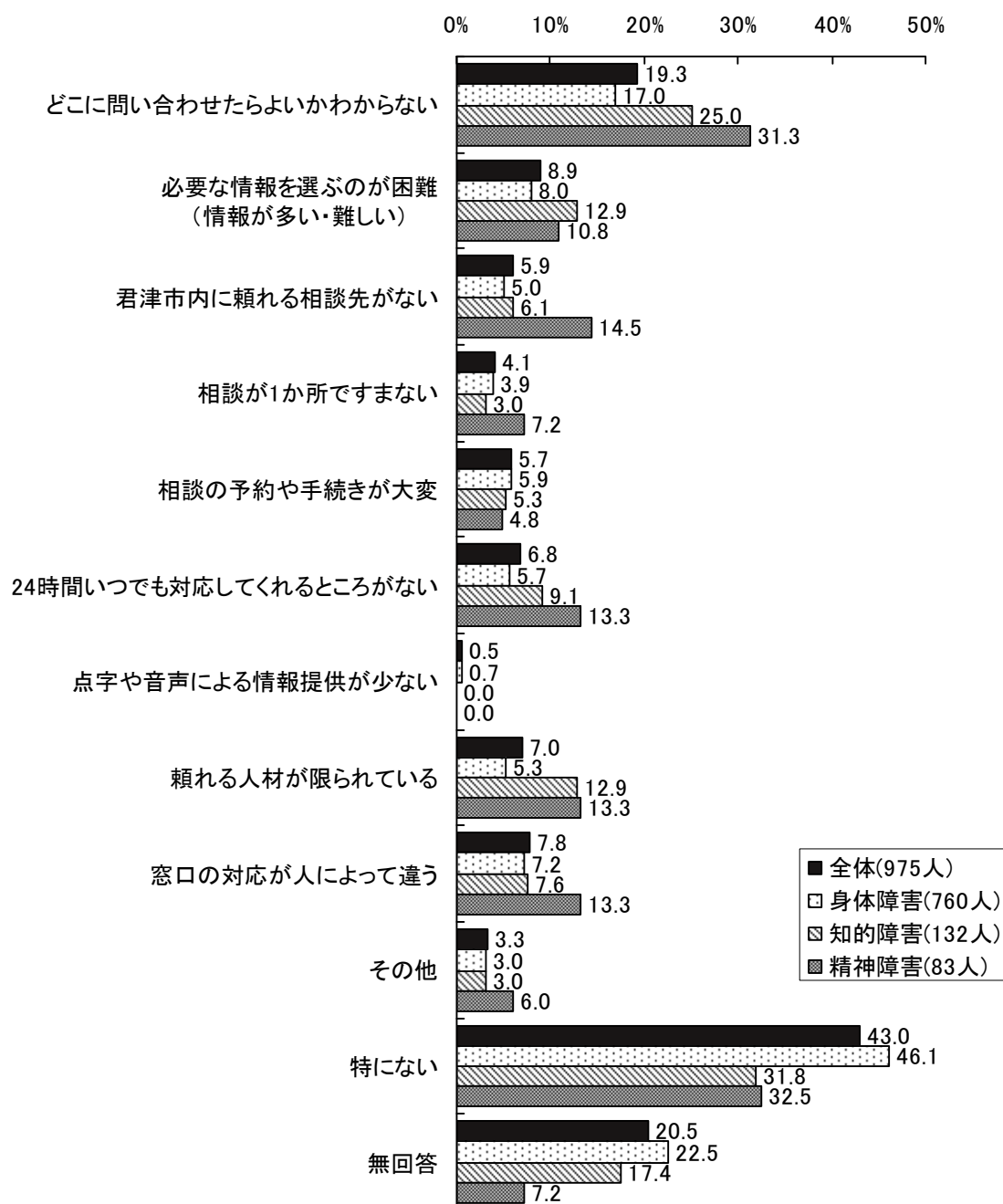
外出時に困ることとしては、全体では「公共交通機関が少ない」という回答が最も多く、次いで「道路や駅に階段や段差が多い」が多く、「無回答」を挟んで「困った時にどうすればいいのか心配」が続いています。障害種別では、身体障害のある人では「公共交通機関が少ない」が、知的障害のある人では「困った時にどうすればいいのか心配」が、精神障害のある人では「外出にお金がかかる」が、それぞれ最も多くなっています。



(2) 相談先についての困りごと

全体では「どこに問い合わせたらよいかわからない」が最も多く、「必要な情報を選ぶのが困難（情報が多し・難しい）」、「窓口の対応が人によって違う」等が続いています。

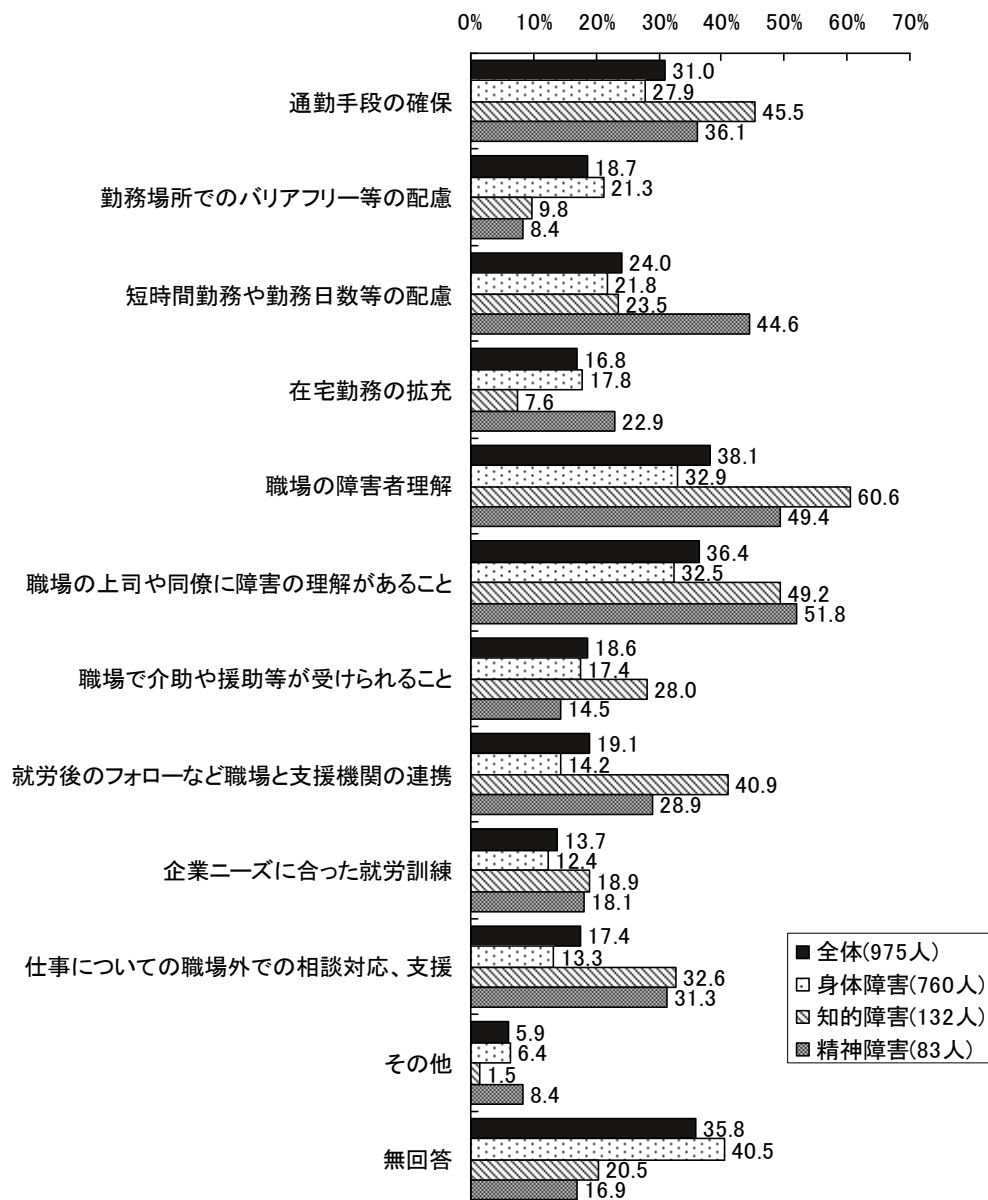
障害種別でみると、精神障害のある人と知的障害のある人で特に「どこに問い合わせたらよいかわからない」が多くなっています。



(3) 必要と思う就労支援等

【障害のある市民】

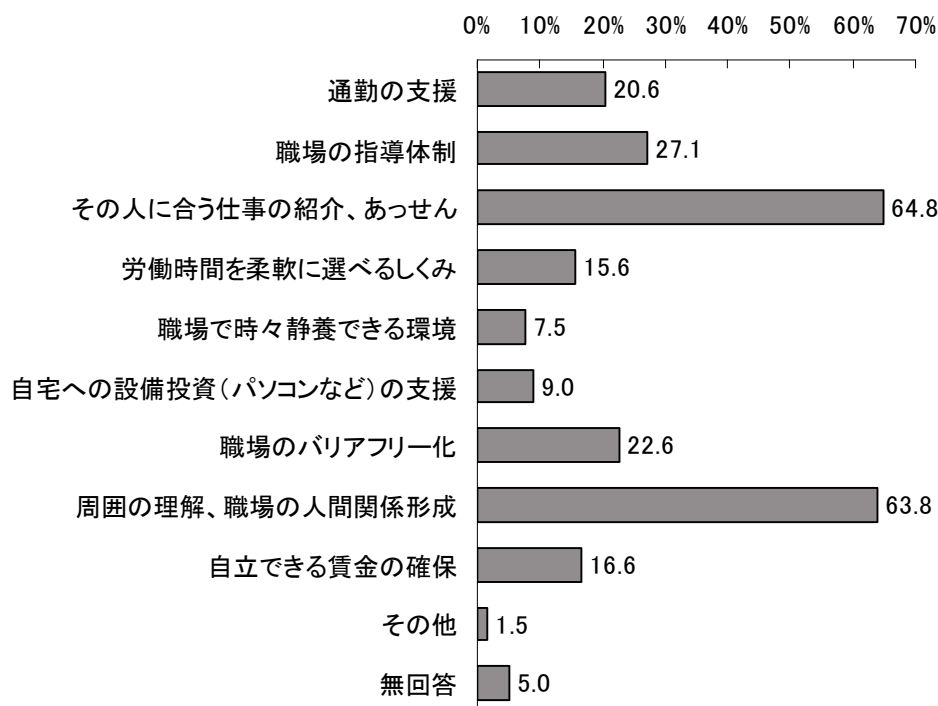
必要と考える就労支援施策について、全体では「職場の障害者理解」という回答が最も多く、次いで「職場の上司や同僚に障害の理解があること」が多く、「通勤手段の確保」等が続いています。障害種別でみると、全般的に知的障害のある人と精神障害のある人で回答率が高く、中でも、知的障害のある人では「職場の障害者理解」、精神障害のある人では「職場の上司や同僚に障害の理解があること」等の回答率が、他の障害等と比較して特に高くなっています。



【障害のない市民】

「障害のない市民調査」では、「その人に合う仕事の紹介、あっせん」と「周囲の理解、職場の人間関係形成」という回答が特に多くなっています。

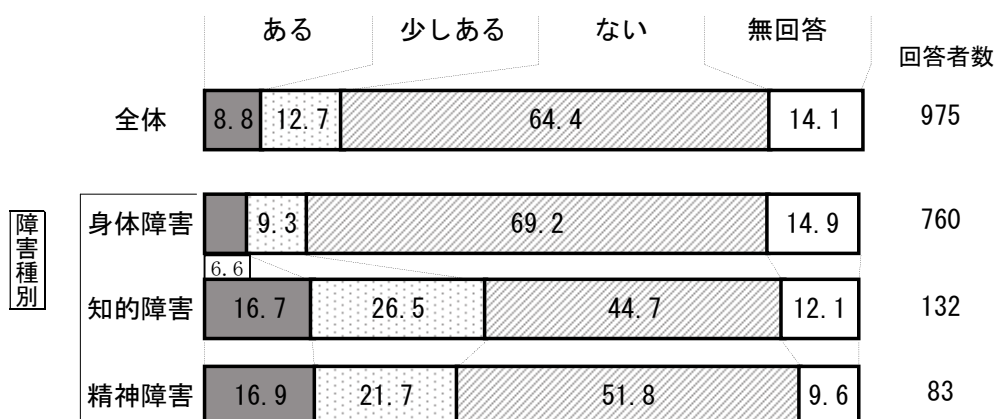
回答者数：199



(4) 差別などを受けた経験と障害のある人への差別・偏見

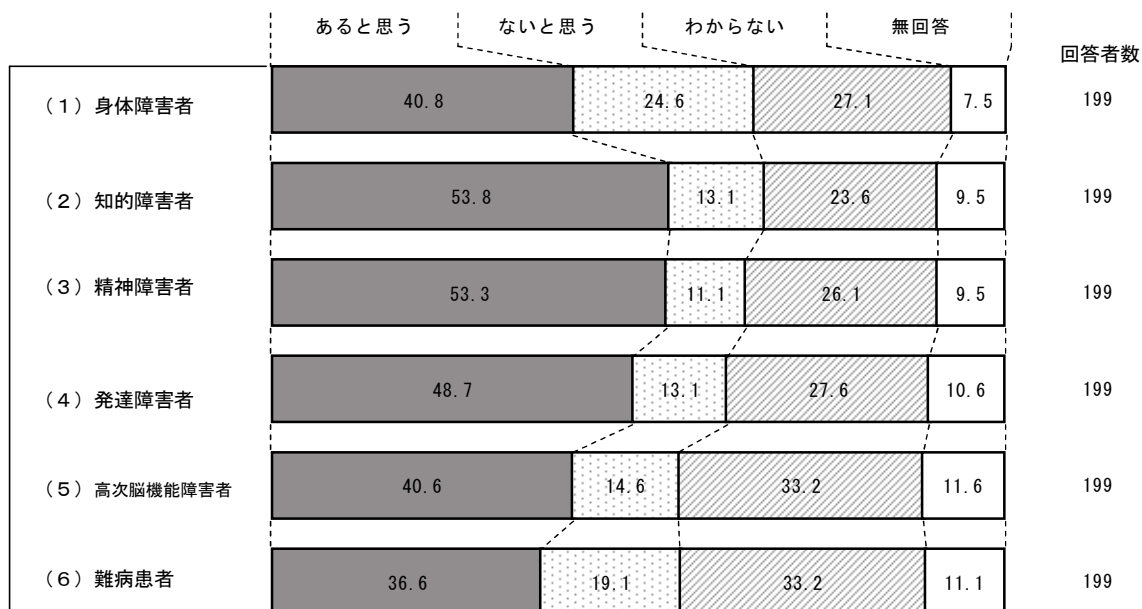
【障害のある市民】

差別などを受けた経験については、全体では「ない」という回答が 64.4%と最も多く、「少しある」が 12.7%、「ある」は 8.8%となっています。「ある」と「少しある」を合わせた“何らかの経験がある”は 21.5%です。障害種別でみると、“何らかの経験がある”が、知的障害のある人で 43.2%、精神障害ある人で 38.6%と、多くなっています。



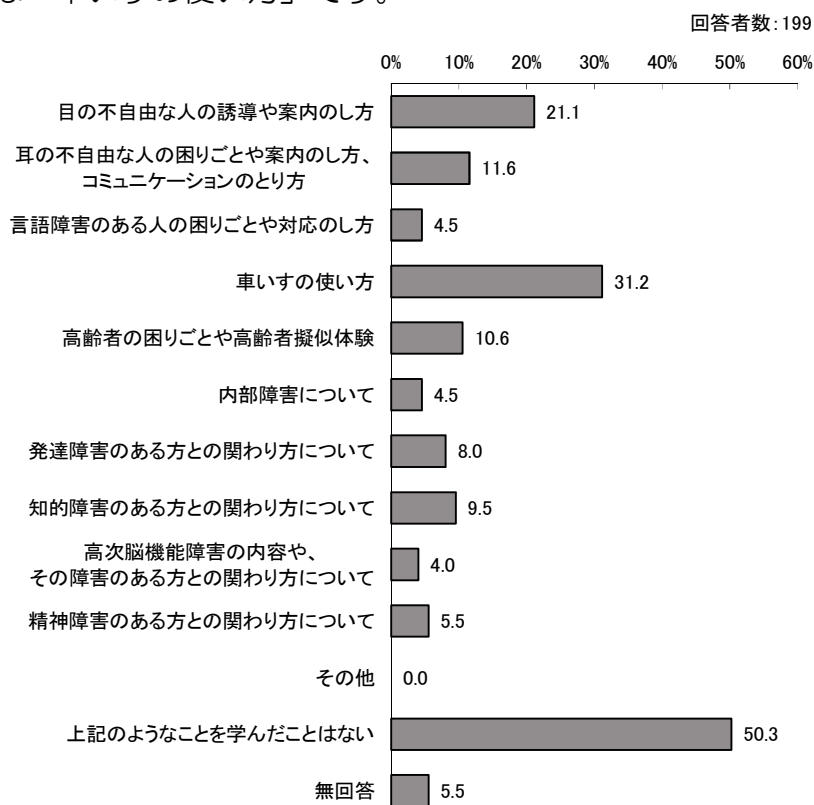
【障害のない市民】

「障害のない市民調査」の結果では、障害のある人への差別・偏見に関して、どの障害・難病についても「あると思う」という回答が最も多くなっていますが、中でも知的障害のある人では 53.8%、精神障害のある人では 53.3%と過半数を占め、特に多くなっています。



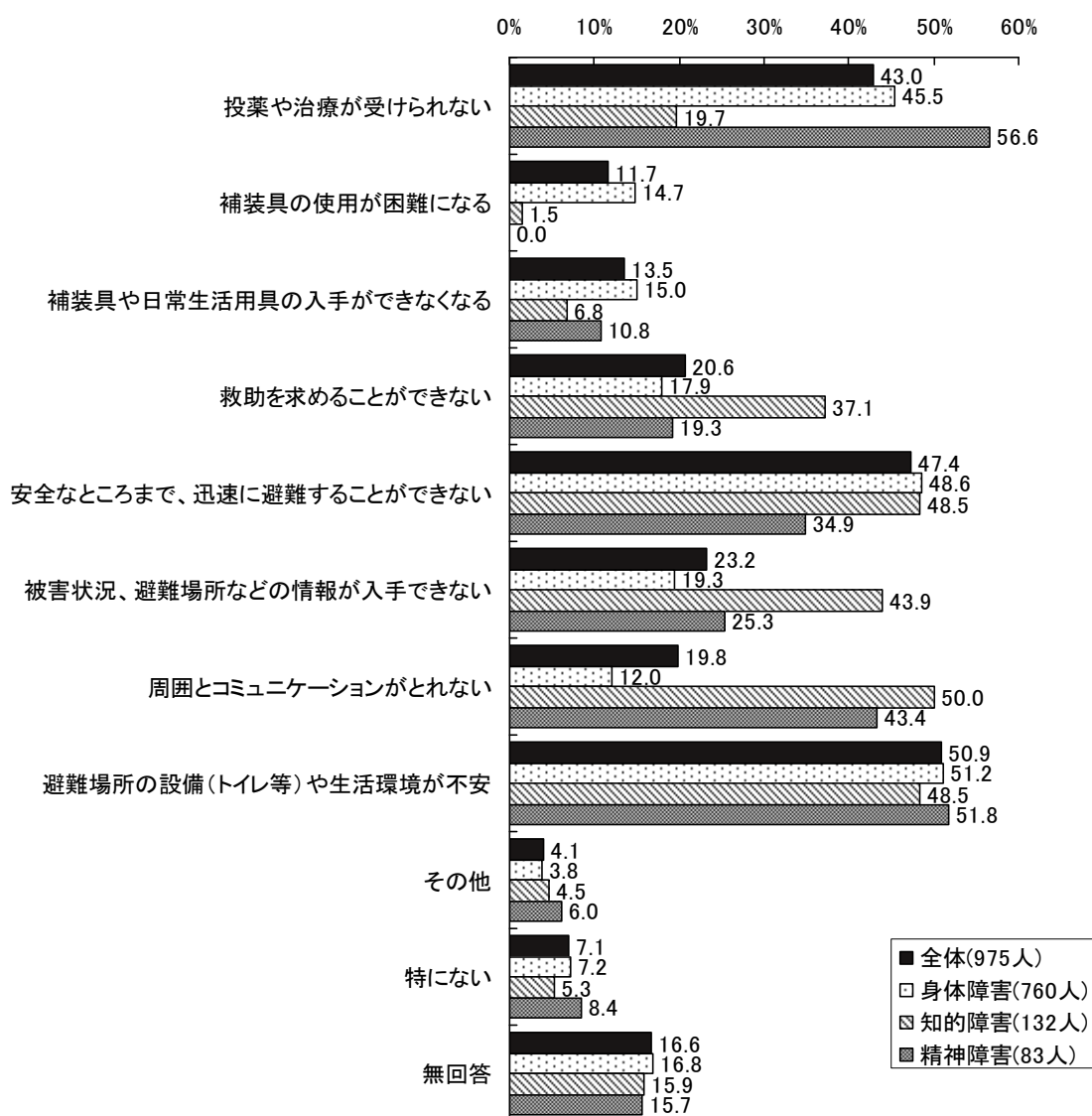
(5) 障害、障害者についての学習経験等

「障害のない市民調査」の、障害や障害のある人等について学んだ経験の有無に関する質問の結果は、「学んだことはない」という回答が過半数を占め、課題がうかがえます。次いで多かったのは「車いすの使い方」です。



(6) 災害時に困ること

全体では、「避難場所の設備（トイレ等）や生活環境が不安」との回答が過半数に達して最も多く、次いで「安全なところまで、迅速に避難することができない」が多く、「投薬や治療が受けられない」が続いています。障害種別でみると、身体障害のある人では「避難場所の設備（トイレ等）や生活環境が不安」が、知的障害のある人では「周囲とコミュニケーションがとれない」が、精神障害のある人では「投薬や治療が受けられない」が、それぞれ最も多くなっています。



（７）福祉情報の主な入手元

全体では「本や新聞、雑誌の記事、テレビやラジオのニュース」が最も多く、次いで「家族や親せき、友人・知人」が多く、「行政機関の広報誌」が続いています。障害種別でみると、身体障害のある人では「本や新聞、雑誌の記事、テレビやラジオのニュース」、知的障害のある人では「家族や親せき、友人・知人」、精神障害のある人では「かかりつけの医師や看護師」が、それぞれ最も多くなっています。

また、全体で 9.2%の人が「情報はほとんど知らない」と回答しており、課題がうかがえます。

